

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスなないろ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置において、職員人数の手厚さ。	1人1人の寄り添い手厚く支援が行え、送迎時は2人体制での送迎をおこなっています。	特性理解を深め、よりよい支援が提供できるよう職員一同外部研修を含め知識の習得に努めていきます。
2	チームでプログラムを立案し、幅広いプログラムを行っている。	個人ごとに担当プログラムを持ち、得意な分野でプログラムを準備し実施しています。振り返りを各自行い、情報共有し次月のプログラムへと活かしています。運動。言葉、SST、感触あそび、イベントなど様々なプログラムを行っています。	さらにプログラムの拡充ができるよう職員間で計画をたて提供していきます。
3	楽しく通所して下さっている。	楽しく取り組めるプログラムや遊びの中で支援できるところと取り組んでいます。	プログラムや遊びの中で興味関心をもてるよう工夫しながら利用児さんたちの関りを支えていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間のコミュニケーションと確認、連絡、相談体制の弱さ	話し合いやミーティングの機会がありますが、意見が出しにくいこともあり、繰り返しの話し合いや既存のミーティングでは個々の意見が出にくい。	意見箱や個人面談などで意見を聞き取り業務改善をしながらチームでのコミュニケーションを構築していきます。
2	役割分担の少なさ	1人で抱えることも多く、業務量の公平さ分担が難しい。	個々の業務量の把握を行い、役割分担をしながら業務に当たる事ができるよう調整していきます。
3	ペアレントトレーニングや保護者会が少ない。	イベントプログラムなどを実施し、交流の機会を持ちましたが、保護者会などの機会がなかった。	イベントに合わせて保護者会の開催も検討したいです。